



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：野沢 達也 幹事：鈴木 雄大 発行：会報・広報委員会

第 3293 例会 (30号) 2023 年 3 月 16 日 (木) 晴

新入会員卓話 SPEECH



公益財団法人 磐城済世会副理事長

松村 耕平 会員

新入会員卓話ということで、簡単な自己紹介から参りたいと思います。生まれは1982年6月8日、今年で41歳を迎えます。今まで遊び呆けていた分恥ずかしながら未だ独身でありまして、そろそろ何とかせねばと思っております。最近は父もだんだん顔が笑っていませんで、非常に怖いと感じております。もし先輩方のご縁でなにか良いお話でもあれば、是非とも、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

生まれは東京の練馬区で3歳から埼玉県の入間市に移り、大学に入学するまで埼玉で育ちました。大学は栃木県にある国際医療福祉大学という大学で、皆さまの耳にはあまり覚えがないと思います。一般的にはあまり知られていないと思いますので、どのような大学かと言いますと、医師から看護師、薬剤師、リハビリ技師、介護、福祉関連分野から医事業務に病院の経営と、医療のことであるならばすべてを学ぶことができる、あらゆる医療系の資格をとることが可能な医療関係に特化した大学です。とくに病院の経営という分野においては日本で唯一アカデミックに学ぶことができる大学であると思います。近年では2017年に1979年以来38年ぶりの医学部新設を成し遂げた大学として我々医療関係者では話題をさらった大学で、このニュースは一般的にも大々的に放送されましたので、もしかするとお耳にしたこともあるかもしれません。この国際医療福祉大学は栃木県の大田原市というところにあるのですが、今思えば非常に住みよい大学生活でした。まずロケーションが良く、大田原市は栃木県の北部にあり、那須の南に隣接しているといえほどのあたりかというのとは大体想像つくのではないかと思います。つまり那須のすぐ近くで、車で30分で那須に遊びに行けるといのは大きな楽しみでした。オフシーズンの平日となれば那須といえども特に混雑しているということはなく、自然やアウトドア、ウィンタースポーツなど4年間じっくり那須を堪能させていただきました。あと大田原市は官民を挙げて福祉大生、国際医療福祉大学の学生のことを一般的に福祉大生と呼ぶのですが、この福祉大生を大事にしてくれました。というのも国際医療福祉大学は大田原キャンパスだけでも全学年、全学部を合わせれば7,000人の学生数がおります。大田原市の人口が7万3,000人ということなので、実に1割に相当する人数が1つの大学で賄われているのです。それも20代という若い世代がです。そうすると福祉大生を顧客や労働力としていかに取り込むかというのが大きなポイントとなってきます。その結果、町中で福祉大生の獲得競争が始まります。飲食店のいたるところで福祉大生専用のポイントカードが作られたり、美容室では20%引きされる福祉大生専用メンバーズカードが用意されていたり、家電店では、毎年2,000人弱の新入生をターゲットにした新生活応援キャンペーンとして福祉大生専用の特別割引セットを用意されていたり、私の行きつけのガソリンスタンドは福祉大の学生証を見せるとリッター10円引きという特典でした。まさに福祉大生に対して至れり尽くせりの生活環境でした。その分地域にお金は落ちましたし、その消費を支える労働力としても福祉大生は貢献しました。経済効果、地域の活性化という点で国際医療福祉大学は大成功を取った例といえると思います。平には大学も短大もあります。平も今後の活性化という課題をかかえているのを考えてもなにかと参考になる点もあるのではないかと思います。

栃木県で4年間を過ごした後、国際医療福祉大学の大学院に進学しました。国際医療福祉大学は日本中というところが大きですが、東京や福岡、熱海などいくつかキャンパスをもっています。本校は栃木県大田原市なのでそこにも大

学院のキャンパスはありましたが、大学院の主力となっていたのは東京の青山キャンパスでした。青山キャンパスの特徴は社会人を主な対象としている点で、同世代のいわゆる学生のような方は留学生を除いてほとんどおりませんでした。大体が〇〇病院の事務長であったり、もしくは院長や理事長といった実際の経営者の方が多く、他には厚労省の若手官僚、あとは銀行員の病院の担当者で、医療のことを学びたいといった方が多かったと思います。国際医療福祉大学の大学院は現在でも唯一病院経営の分野での博士課程の学位をとれる大学院だと思います。私も無事医療経営学の博士号をとることが出来まして、その後いわき市に移り住むことになりました。

住居をいわき市に移し、病院で実際に仕事をすることになりました。どのような仕事をするのかということは特に聞いてはおりませんでしたが、まあ経営部門である管理部のどこかで仕事をすることになるのだろうと思っておりましたところ、理事長より命ぜられたのは看護本部長という役職でした。大学から通じて10年以上病院について学んできましたが、看護に関しては全くの未知の分野。その総元締めをやれとのこと、非常に不安ではありましたが、実際の看護をするわけではなく、管理者をやれということなので、やってやれないことはないだろうと引き受けることになりました。実際にやってみると非専門職が専門職を束ねるのはなかなか大変で、「あなたに看護のなにがわかるんだ」と何回言われたかわかりません。また、「要求するならばそれに見合った対価を払え」とこちらとしても耳が痛い意見もありました。全体的には何をどの程度要求してよいかというさじ加減が非常に難しかったというのが印象です。ただ難しかったですがやってよかったとつくづく思います。看護部というのは病院で最も人数を抱える部署で、我々の法人でも650人いる職員のうち350人が看護師です。実際に病院を動かすのは看護師で、いくらか経営者がお題目を立てようとも、実際に看護部が動かなければ病院はなんにも動きません。その看護部の中軸となる職員と顔を合わせて仕事できたのは、今後の活動に大きなメリットになる、というかなくはならないものになると思っております。

今年度の初めより後任に看護本部長を譲りました。後任はたたき上げの看護師で、看護についてよく分かっていて、これから何が必要で何をしなければならぬかを熟知しております。わたしが引っこ掻き回した看護部もこれで落ち着くのではないのでしょうか。

今年で我々の病院は140年を迎えます。少し歴史的なことをお話ししようと思いますが、時代は江戸時代に遡ります。当時の医療というのは漢方を主とする東洋医学が日本の医療のスタンダードでした。江戸時代の後期になるとそこにシーボルトが蘭学という形で西洋医学を持ち込みました。その後明治維新が起こり、明治新政府が発足すると、日本は鎖国をしていて西欧列強に遅れをとっており、それに追いつけ追い越せと富国強兵政策をとることになります。その富国強兵政策の根幹にあったのが医療でした。それは国民が健康でなければ働けない戦えない。国民の健康水準を引き上げることが新政府にとっても大きな課題であったのです。そこでまず各地に病院と医学校を設立します。このいわき平の地にも平藩医学校兼病院という今で言う医学部とその附属病院を建設しました。当時の松村家は代々藩医という藩お抱えの医師を生業としておりました。当代、今から3代前の松村高知はこれからの医療は西洋医学であると見抜き、この平藩医学校兼病院で西洋医学を学びました。その後明治4年に廃藩置県が実施され、藩から県へと変わりました。今でこそ福島県は1つの大きな県ですが、当時は海沿いを磐城の磐に前と書いて磐前県、真ん中を福島県、会津が若松県となっており、これが今で言う浜通り、中通り、会津の由来となっております。明治新政府は県を整備するとそれぞれの県に病院を建立します。海沿いの磐前県は平藩医学校兼病院を改修して県立磐前県病院となり、そこで西洋医学を学んでいた高知もその病



2022~2023年度国際ロータリーのテーマ

「イマジン ロータリー」

IMAGINE ROTARY

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

院で勤務することになりました。これが明治5年のことです。しかし、この県立磐前県病院は財政難のため、10年で廃止されてしまうのです。それが明治15年のことです。浜通り唯一の病院であった磐前県病院がなくなるとはこの地に医療がなくなってしまうと私財をもって私立長春館病院を設立した。これが我々の始まりで明治16年1883年のことです。そしてこの140年の間には数々の苦難がありました。まずこの長春館病院は火事で焼失してしまいました。当時平の町で火災があり、それに巻き込まれた形になります。翌年には松村病院として再建しますが、今度は太平洋戦争時に空襲にあい、再び焼失してしまいました。通常地方というのは攻撃価値が大きくなり、疎開先にもなるように比較的安かったのですが、いわきには常磐炭田があり、これは首都圏に最も近い大型炭田でありまして、日本にとって重要なエネルギー源であったと同時にアメリカにとっても重要な攻撃目標になりました。そのようなことからいわきは地方としては異例の3度にわたる大規模空襲を受けており、これは平空襲とよばれております。焼失後再び病院として再建されますが、何度

も焼失を繰り返し、その都度再建を果たせたのは、ひとえに地域からの多大な支援があってこそでした。1883年、明治16年から現在に至るまで我々が医療を続けてこられたのは我々が地域にとって必要な病院であり続けた。その結果、地域が病院が存続することを認めてくれたためとそう思っております。提供するべき医療は時代とともに刻々と変化しております。しかし、この地域に、平の地に必要な医療を提供する。これは私より何代も前から受け継がれてきたことであり、そしてこれからも引き継いで行かなければならないことであると思います。これまでの140年。そしてこれからの10年、20年と地域に必要な病院であり続けることができるよう精進を重ねて参る所存であります。最後に先月2月半ばよりゴルフを始めました。荒川ゴルフクラブに通っており女子プロの谷プロに週に1回レッスンを受けております。来年の今頃にはラウンドに立てればよいと思っております。一緒にラウンドをするようになれば、その時には一つかわいがっていただけるとよいと思います。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

司会：鈴木雄大幹事

〔点鐘・ロータリーソング（我らの生業）・4つのテスト（松崎智弘会員）〕



松崎智弘会員

◆新入会員入会式

水戸証券いわき支店長 川松 裕之 会員

4月1日付けで水戸証券いわき支店長に就任する川松裕之氏の入会式が行われ、野沢達也会長からバッジなどが送られました。川松氏は「本日よりロータリークラブの一員になります。よろしくお願いいたします。埼玉県と群馬県のロータリークラブにも入っていました。皆様と知り合いになれることは大きな財産になります」と抱負を語りました。



野沢会長からバッジなどを受ける川松氏（左）

★誕生祝



高萩阿都志さん
(3月4日)

ハッピーバースデーソング斉唱

◆会長挨拶ならびに報告



新型コロナに対する国の指針が変わりまして、マスクの着用は個人に委ねられました。ロータリークラブの例会も本日より、マスクの着用は本人に委ねたいと思います。3月、4月は人の行き来も激しい時期です。ロータリークラブ会員も企業交代がありますが、新しい会員にはクラブを盛り上げて欲しいと思います。

◆幹事報告

- ハイライトよねやまが届きました。
- いわき内郷RC、いわき桜RCより会報が届きました。



◆委員会報告・会員報告

◆出席委員会（今成俊克委員長）

例会日	基本会員数	出席者	メーキャップ数
3月16日	52名	29名	—

◆ロータリー財団委員会（代理・関口武司会員）

渡邊有さん、八幡恭朗さん、関口武司さん。 以上3件

◆米山記念奨学会委員会（八幡恭朗委員長）

渡邊有さん、八幡恭朗さん、関口武司さん、阿部弘行さん、岡田健太郎さん。 以上5件

◆雑誌委員会（松村耕三副委員長）

「ロータリーの友 みどころ 読みどころ」

陸前高田の東日本大震災復興についての記事を読み、震災復興について考えながら、ロータリー活動をしていく必要性も感じました。

◆スマイルボックス委員会（鈴木東雄委員長）

- ♥八幡恭朗さん（1月の母の葬儀に際しましては、多数の御弔問、香典等誠にありがとうございました。又、私の入院に際しまして、会より御見舞を頂戴しまして、ありがとうございます。体調をみながら出席させていただきます）♥松崎倫久さん（誕生祝、結婚祝有難うございました）♥泉洋平さん（結婚祝ありがとうございます。今年で結婚17年になります）♥高萩阿都志さん（誕生祝ありがとうございます）♥川松裕之さん（本日よりいわき平ロータリークラブの一員になります。宜しくお願いいたします）♥飯野光世さん（松村耕平会員の卓話楽しみにしています）♥有賀行秀さん（松村耕平さん卓話よろしくお願ひします）♥渡邊有さん（松村さん卓話楽しみにしています）♥松崎智弘さん（コンベ御参加ありがとうございます）♥阿部弘行さん（八幡さん、おかえり〜。気をつけてね）♥鈴木東雄さん（卓話よろしく）♥関口武司さん（松村さん卓話よろしくお願ひします）♥越智正典さん（松村先生、卓話よろしくお願ひします）♥小野寺順正さん（松村さん卓話よろしくお願ひ致します） 以上14名



★本日の例会案内 3月23日（木）12：30～
いわき分区分会ガバナー補佐来訪

お食事メニュー＝サーモンソテー デュグレソース

★次回の例会案内 3月30日（木）12：30～
新入会員卓話

関彰商事いわき支店副支店長 川瀬直史会員
お食事メニュー＝豚ロースの南蛮焼き